



※定住外国人子ども奨学金ニュースレターWeb版は個人情報などの都合上、内容を一部変更しています。

## 第 14 期生の選考を終えて

新型コロナウイルスの第4波の到来により、二度目の緊急事態宣言下の春を迎えることになりましたが、みなさま無事にお過ごしでしょうか。

2021年4月4日(日)午後、T委員、N委員及び私の3名で、第14期奨学生の面接試験を行いました。その結果、米国(女子1名)、および中国(男子2名)にルーツをもつ高校生計3名を、奨学生として採用することに決定いたしました。

今回の志願者は計7名でしたが、まず、書類の提出期限に間に合わなかった志願者1名を不採用とし、残りの計6名の中から、面接試験を経て、上記3名の採用を決定しました。3名とも目的意識が明確で、成績も良く、将来のロールモデルとして期待できる人材であるという点で面接委員の意見が一致しました。3名は、来日後3年2ヶ月と7年2ヶ月、日本生まれです。なかでも米国ルーツの高校生はともしっかりしており、大学で人が人を差別する心理について勉強したいという明確な意志の持ち主です。

他方、今回の志願者の中には、書類上の進学先と、面接時に志願者本人が回答した進学先が一致しない残念なケースもありました。前回と同じく、全体に「よくできる」志願者が採用された点には変わりありませんが、前回とは異なって来日後間もない志願者も採用されており、全体にバランスの取れた選考ができたのではないかと思います。

今回も前回と同様、コロナウイルスが蔓延している状況でしたが、緊急事態宣言の発出前であること等の諸事情に鑑み、マスク着用が前提の対面式で面接試験を行いました。(4月18日に予定していた交流会は中止せざるを得ませんでした)

昨年度は毎年恒例のカンタービレ・コンサートを実施できませんでしたが、今年もかなり厳しい状況です。とはいえ、定住外国人の生活維持に対するサポートの重要性はいささかも減じておりません。今後とも当奨学金事業のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

(実行委員長 樋口 大祐)

2021年4月の新奨学生の奨学金授与式、オリエンテーション及び奨学生交流会は、COVID-19の感染拡大防止のため、電話とWeb会議システムを用いて行いました。一年に一度、卒業生も含めて4学年が顔を合わせる貴重な機会なだけに対面で行えなかったのは、本当に残念です。

例年出展していたイベントも、主に飲食を伴うものであるため、今年度も中止になるものが多そうです。現時点では、チャリティコンサートについては、開催を模索しています。資金確保のための活動がどれくらいできるか不透明な状況です。

(事務局より)

# 奨学生からのメッセージ

## 〇さん(14期生)

### 1. 自己紹介

ルーツのある国は中国で、2018年の時に日本に来ました。最初、日本に来たときは、日本語や日本文化は全くわかりませんでした。なので、中学1年の時は、一番大変でした。

まわりのクラスメイトとは会話ができないし、授業中の内容もほとんど理解できなかったです。

でも、3年間のハードワークの後、今ではすごく大きな進歩を遂げたと思います。今まで僕に教えてくれた先生方にとっても感謝しています。

### 2. 高校に進学してどのようなことがしたいと考えていますか。

今は公立高校1年生になりました。学習面では、僕は理数英にすごく興味があるので、高校2年生になったら、理系のほうに進んで、大学に進学したいです。

部活面では、中学からずっと吹奏楽部に参加していたので、高校でもまた引き続き吹奏楽に入るつもりです。

### 3. 将来の夢

将来就きたい職業はまたはっきりとしてないけど、外国に留学して、理系の領域で活躍することが出来る人になりたいです。達成したい目標は英検2級!

## Yさん(14期生)

### 1. 自己紹介

私は中国生まれで、2013年10月頃に日本に来ました。高校に入るまではちゃらんぽらんで、ゲームをずっとしていたため、念願のH高校に行くのを先生に止められ、断念してY高校に行くことになりました。今でもそのことを後悔し、「もっと勉強しておけばよかった」と常に思っています。そして、意外かもしれませんが、私は中学校時代はずっといじめられていました。中国人であるために、なぜここまでディスられないといけないのかが不思議で、日本人のことを中学2年生まで悪く思っていました。そのため、私は今でもそのことを記憶しています。しかし、今となっては、もうどうでも良いこととなり、私の記憶のかけらでしかないのです。

今の高校生活にはとても満足し、中学校みたいなことが起こらないように私は誰にでも優しく平等に接しています。「彼らのような塵にならないように」という強い信念の上で、私はいじめが起こらないように、そしていじめがあったら、そこから逃げるのではなく、戦います。いじめにあった私だからこそいじめに共感できないと私は思います。

### 2. 高校に進学してどのようなことがしたいと考えていますか。

部活に入ってわかったことは、部活と勉強の両立がいかにかに難しいかということです。部活に没頭すると勉強に手が回らなくなるので、そのバランスをどう保つかが、今後の課題になってきそうです。部活の仲間とクラスでできた友達もいるので、友人関係に支障は出ないと思います。

今後の高校生活では、先生の課題を遅れずに提出して、高校1年生で数Ⅰ+A、Ⅱ+Bを終わらせて、英語は早く二級水準までレベルを上げたいです。単語も多く覚えたいです。1年生の間に、単語を 3000 語ぐらい常に暗記できている状態にしたいです。化学か物理も基礎を終わらせたいです。そして、社会と国語は2年生からでも間に合うので、1年生では、授業についていける程度にしておきます。

### 3. 将来の夢

私の今の目標は5月30日にある英検準2級に合格することです。今後の目標はゲームを作る会社で働きたいです。例えばソニーやYouTubeの日本部門で働きたいです。難しいようですが、結果的に無理だとしても悔いが残らないように頑張ります。将来は普通に結婚して、安定した仕事に就きたいです。

## Mさん(14期生)

### 1. 自己紹介

私はアメリカと日本のハーフです。生まれてからずっと日本に住んでいます。中学校では、ソフトボール部に入部していました。私はピッチャーを務めていました。チームの人数が少ない分、仲間とのチームワークの大切さを学ぶことができました。私は委員会活動では、風紀委員の週番長を務めました。そこで培った責任感を活かし、高校でも風紀委員になりました。精一杯、頑張ります。

### 2. 高校に進学してどのようなことがしたいと考えていますか。

私は今まで体験した事のない部活動に入部したかったので、軽音楽部に入部しました。これまで気づかなかった新たな自分の才能を見つけ、発揮したいです。

また私は海外に行ったことがないので、外国の文化や、日本との生活の違いについて学びたいです。そして、国際交流や海外ボランティア活動などに積極的に参加したいです。そのために、英語でのコミュニケーション能力を向上させる努力をします。

### 2. 将来の夢

私は高校卒業後は大学に進学したいです。そこで、心理学部に入りたいです。私は今まで、皆と違う見た目だからという理由で嫌な気持ちになったことがありました。このような経験から、大学や高校では人がどうして差別するのか等の心理を学び社会に貢献したいです。

## Oさん(13期生)

### 『真の自主性とは』

私は去年の四月「自主性を重んじる」という校風に希望と夢に胸を膨らませ高校に入学した。コロナ禍で本格的な学校生活は五月末からとなり、私は兼ねてより希望していたダンス部に入部した。だが、それは深い闇と息苦しさの中の生活のスタートとなる。私はブラック部活とよばれるものの存在を知らぬままダンス部に入部した。学校の広報誌には「剣道部はホワイト部活です。」と書いてあり、「どういう事？」と思う中、ダンス部の活動で精神的圧力と理不尽さを感じながら現実と直面していく。ここで多くの事は敢えて語らないが、ダンス部は大会で優勝するなどという実績がある為なのか、教育委員会の部活動

のガイドラインを守らない部だった。私にとっても耐え難い問題はいくつかあり、母が顧問の先生と話し合いをしてくれたが、まるで建設的な解決に至らず良い方向へ改善されなかった。私だけでなく数名の部内の一年生や保護者はおかしさに気付いていたが、得体のしれない同調圧力にかき消され、うやむやに時間が過ぎていった。私は多くの疑問と理不尽さを感じながら精神が病んでいったが、それでも部を辞めなかったのは「ダンスは好きだから、辞める時は私の意志によってのみであり、部内の同調圧力によって辞めるのは嫌だ。」という思いからだ。私は病んでいく中まともな判断ができなくなり、母はとても心配した。その後、私は母の協力を得て、次第に自分の心を重視して考える様になり、今年の一、二月、部活を辞めた。辞める時の理由には、何かそれらしい理由を取り繕って伝え、本当の思いは心の裡に隠した。私は学校の闇に気づいている。これはあくまで私の個人的意見として受け取って頂きたいのだが、学校という狭い社会において、特に熱血なクラブにおいては、生徒が先生を完全に信用してしまい、場合によっては宗教と同じような状況がおこる。そして何か不満に思う事があっても従ってしまう。入部したての一年生はおかしいと思う事があっても先輩には逆らえない。その一年生が二年生になれば、自分が先生や先輩に強要された事と同じ事を後輩に強いてしまう。このようにして、惨劇は踏襲されていく。もちろん二年三年は悪しき風習だと気付いていないので自分達を信じてやり続けてしまう。特に県大会などで上位の成績をとる部においては、学校としても名誉な事であり、校長も歓迎すべき事として顧問を持ち上げる。そしてその裏側での生徒の苦しみは葬り去られていく。部活動に限らず、あらゆる問題が多くの学校で起こっている。学校は、主に教師と生徒のみが存在する場なので、当たり前や正しさの基準は大人である教師に委ねられる事が多い。なぜなら教師は大人であり、大人がやっている事は基本的に正しいという基準になり、仮におかしなことをやっていたとしても「正しいに違いない」と思う様になるからだ。学校とは、子供が大人に従う世界なのだ。だからこそ、それが常に危険をはらんでいるというスタンスは持つておくべきなのではないだろうか。又、そんな中で真の自主性は育まれていくのだろうか。私は、選択に基づいた自由意思が無ければ、真の自主性は存在し得ないと思う。

私はここで、教師や学校を否定する為にこの作文を書いているのではない。素晴らしい教師や学校も存在する事も知っている。だが学校に闇があるのも真実だ。この文章を読んで、私を異端児と見なす人もいるかもしれない。それでも私は十五年生きてきた人生の中で最大の勇気をふりしぼり、私の考えを伝えたい。この作文を読んだ大人が、学校や公共教育の中でおかしな事が行なわれているのを見つけた場合、保護者でなくとも通報して良いという事を知ってほしい。又、私の考えに異論がある人がいても当然の事だと思っている。人は皆、意志を持ち、考えや意見を持つ。何かに疑問を持った時、人は何となく世間や周囲に合わせて生きていく場合があるが、それでは思考停止の全体主義になってしまう。だから私の考えに何か感じた人がいたなら大いに議論していただきたい。

## Dさん(13期生)

### 『毎日の生活で大切にしていること』

私が毎日の生活で大切にしていることは主に四つあります。まず一つ目は健康でいることです。健康を失うとその状態によっては好きなことができなくなる可能性があるからです。そうならないために私が健康面で気をつけているのは食事と就寝時間です。食事は一日の食事を総合的に考えてバランスよく摂取することを心がけ、就寝時間は毎日同じ時間に寝ることを意識してしています。そうすることにより毎日元気に生活することができるようになりました。

二つ目は物事をあまり深く考えないことです。私は昔から相手の一言を重く受け止めすぎたり、小さなことに固執したり、深く考えすぎる事によって疲れを感じてしまうことが多くありました。だからストレスを溜め込まないために負のループを断ち切るイメージを持つことを大切にしています。あとは、好きな作家の本を読んだり自分の趣味に時間を使って気分を一新したりすることを心がけています。

三つ目は、プラス思考に物事を考えることです。そう思った理由はトラブルや困難なことが起きたときに、「どうしよう」と頭を抱えクヨクヨしているだけでは先に進まないと考えたからです。そこから悩む時間があるなら、この状況をどう改善しようかとプラス思考にシフトした方がいいな、と思うようになりました。そうやって自分で良いようにとらえることで人生が幸せになったり、人に優しくなれたりチャレンジ精神が多く生まれるようになったので毎日前向きに日常を送ることができました。

最後は、毎日自分の周りの人たちに感謝の気持ちを言葉にして伝えることです。感謝する気持ちを意識的に探したり感じたりすることで、今までのモノの見方や捉え方が変化し、それがいつか習慣になったら幸せと思える時間が増えたなど思うことが多くなるはずです。だから私は、毎日何かをしてもらったりしたら必ず「ありがとう」と伝えることを大切に毎日過ごしています。

## Mさん(13期生)

### 『最近の音楽イベントについて』

今回は、最近の出来事について書こうと思います。

僕が書こうと思ったテーマは、「最近の音楽イベントについて」です。これを書こうと思った理由は、野外フェスやレイヴ、クラブイベントやコンサートライブなど、コロナ禍では開催しづらい状況にある音楽イベント業界が、どういう風に変ったのかということを知ってもらおうと思ったからです。

コロナ禍に入るまで音楽イベントは主に、ライブハウスやクラブなど、どうしても密集してしまっていました。ですが、コロナ禍に入ってからイベントは、無観客ライブや、仮想現実でのライブ(ライブ配信)が主になってきました。

これには、デメリットと、メリットがあります。デメリットは主に、「参加者が離脱しやすい」ということと、「知り合いを増やす場が少なくなる」ということがあります。

まず一つ目の、「参加者が離脱しやすい」というのは、前までの音楽イベントは建物の中で行うのがほとんどだったため、一度建物の中に入ると気軽には出られなくなっていたので参加者が減ることはとても少なかったです。ですが、仮想現実でのライブでは、気軽に退出できるようになったせいで、参加者の人数が減ってしまうことが多くなってしまいました。

もう一つの「知り合いを増やす場が少なくなる」というのは、イベント参加者はそれぞれ自分の自宅からライブを見ているので参加者同士が対面して話すことがなくなり、唯一話せる場所と言っても配信へのコメントくらいなので必ず埋もれてしまいます。

ですがメリットもたくさんあります。メリットは主に、「運営の費用を抑えることができる」ということと、「地域に関係なく(全世界)、イベントの参加人数を増やすことができる」ということです。

まず一つ目の「運営の費用を抑えることができる」というのは、イベントを運営するには、会場費、人件費など、たくさんの費用がかかり、会場費だけでも軽く 20~30万円を超えることが多いです。ですがオンラインイベントの中でも、仮想現実でのライブイベントだと、会場を必要としないため、費用がかかることが少なくなり、運営もとてもしやすくなります。

そしてもう一つのメリット「地域に関係なく(全世界)、イベントの参加人数を増やすことができる」というのは、オンラインでの開催なので会場に行く必要がなくなります。それにより海外のアーティストの出演費用を抑えてブッキングしたり、海外のリスナーを獲得したりできます。それだけではなく、上限を気にすることなく大人数の参加者を獲得できるようになります。

僕はクラブ内のイベントと、仮想現実内でのオンラインイベントと両方主催したことがあるので、今回調べたことにとっても共感しました。コロナ禍にある今、音楽イベントを現場で行うことが困難になってしまっているネガティブに捉えるのではなく、より多くの人に音楽イベントの楽しさを知ってもらえるチャンスになっていると、ポジティブに捉えるべきなのでは無いのかと僕は考えます。

## Sさん(12期生)

### 『四季について』

四季について説明したいと思います。

まず、一年の中で最初に来る季節は「春」です。春といえば、気温が高くなり、4月になると桜が満開になります。その桜の下で毎年入学式が行われます。またお花見に行き、桜の下できれいな写真を撮っている人もたくさんいます。

私が以前に住んでいた中国の広州では、「春」の時には、気温が20℃位になります。4月は新学期ですが、日本と違い新年度ではないです。春にはマンゴーやイチゴもおいしいです。

「春」はすてきな季節だと思います。

二番目に来る季節は「夏」です。夏といえば、梅雨が終わると暑くなります。最近では、35℃を超える日も多くなりました。暑いのでプールに行く人も多いです。夏の果物といえば、スイカです。またお祭りもいろいろなところがあります。ゆかたを着てお祭りに行く人も多いです。花火も楽しいです。

広州の夏は、すごく暑くて時には40℃を超える時もあります。最近では神戸も暑いですが、広州と比べると涼しいです。広州の夏の果物は、ライチ、もも、スイカなどです。特にライチは、食べ始めると止まらないおいしさです。

「夏」は楽しい季節だと思っています。

三番目に来る季節は「秋」です。秋は気温が高くもなく低くもなくちょうど良いです。気温が低くなると、北の地方から順に紅葉してきます。木全体が赤くなるのがとてもきれいです。また秋はおいしい食べ物がたくさんあります。特に果物では、柿、栗、梨、ぶどうがあります。私は柿が大好きで、食べ始めると止まらなくなってしまいます。「秋」はきれいな季節だと思っています。

最後に来る季節は「冬」です。冬になるとどんどん気温が低くなっていきます。朝布団から出るのがつらくなります。寒くて外に出かけるのもおっくうになります。でも冬の果物、みかんといちごもおいしいです。

広州では冬に雪は降らないけど、神戸では降る時もあります。初めて雪を見たときは、すごくきれいだと思います。そして手でさわるとすぐ溶けてしまいました。「冬」はちょっとつらい季節だと思っています。

私は「秋」が一番好きな季節です。気温がちょうど良く、おいしい果物がたくさんあるからです。

皆さんはどうですか。

**Nさん(12期生)****『最近読んだ漫画について』**

私が最近読んだ漫画で、印象が深かった作品は、「ヘタリア」という漫画です。内容は国を擬人化するというもので、ちょっとした国の知識や、世界史、国同士の仲など、国について学ぶことができる、という作品です。この作品を知ったきっかけは、友人と部活の後輩にすすめられたことで知ることができました。この作品のおかげで、興味のなかった世界史に興味を持つようになったり、今まで知らなかった国を知ることができたり、などと、知識やためになることも知ることができました。また、この作品は日本国内だけでなく、国外の方からも絶大な人気がある、国際的にも愛されている作品でもあります。SNSなどで、評価やこの作品を知った時の反応などを見てみると、好印象なコメントが多く見られます。もちろん、批判的なコメントや意見もありますし、一時期とある国では問題になりましたが、そういったデリケートな部分も踏まえて、私はこの作品が大好きです。また、国際的な関係を扱っているこの作品に、自分も外国にルーツがあるので、親近感のようなものも感じました。自分のルーツのある国は残念ながら今のところ登場していませんが、自分のルーツのある国の言語を話す国が登場していたり、最近、いくつも新しく擬人化された国があるので、楽しみです。色々な国が登場していて、その国の人の性格を表していたり、共感できたりするところもあり、非常に面白い作品です。国であった出来事や、歴史などを分かり易く、面白く紹介しているので、世界史や、国のニュースや国同士の関係などに興味がある方は、是非読んでみてはどうでしょうか。また、この作品が新しくアニメ化され、休載していた漫画もまた再開するので、とても楽しみです。これからのこの作品の展開が楽しみです。これからも、この作品を愛し続けたいと思ったので、この作品を作って下さった作者に感謝、そして紹介してくれた友人と部活の後輩へ感謝です。

**Rさん(12期生)****『ロビンソン漂流記読後感』**

人生において、私たちは必然的にいくつかの困難に直面しますが、あなたが粘り強い忍耐力を持っている限り、あなたは確かに困難を克服して生き残ることができるでしょう。強風と波の後でのみ、勝利の夜明けを告げることができます。

「ロビンソン・クルーソー」は今年一月くらいに新しく買った本です。その本はイギリスの作者ダニエル・デフォーが書いた冒険小説です。主人公のロビンソンは、航海中に危機に瀕し、船で一人だけ孤島に到着しました。何も無い状況下で、いろいろな困難がありました。でも、ずっとあきらめなくて、島に28年間住みました。その後イギリスに帰国しました。

ロビンソンは忍耐強く、残酷な生活を生き延び、私は深く感動しました。彼に生きる意志を持たせるのは何でしょうか。それは彼の粘り強さと楽観主義です。無人島では、彼はいつも「生きたい」と自分に言い聞かせ、ずっと自信を持っていたので、彼は無人島で食料を得、無人島に住居を建てることはありません。家に帰りたいたいという強い感情を持っていることで、全く野外生活経験がなかったけれど、ロビンソンはどんな大変な困難があっても、あきらめずに、最後まで進んでいきました。

「ロビンソン・クルーソー」を読んで、私は次のことを理解しました。私たちは正面から人生に向き合

なければなりません。私たち一人一人がこのような困難に直面することは避けられません、立派な態度を保てば、再び立ち上がることができます、そして私は最後の瞬間まで決してあきらめません。このポジティブな考え方がいいと思いました。

私はロビンソンのように、課題を解決し、「立ち上がって」この現実を変えるために、楽観主義と自信と忍耐力をもって、困難を克服することで、明るい光を見ることができると思います。

## Aさん(11期生)

### 1. 高校を卒業して

私がどんな高校生活を送ったのか3つに分けてお伝えしようと思います。

高校1年生の頃は何かかもが初めてで、新しい友達に先生方、そしてモダンな校舎で過ごす3年間は充実するだろうと確信しました。実際にたくさんの人に囲まれて、とても幸せでした。ですが、思春期というものに突入し、人間関係や物事を深く考えすぎようになり、周りにいた人たちは1人、2人と消え、人であふれていた自分の周りは少数になっていました。そんな私でもとなりにいてくれた友達には感謝しています。この時、初めて本当の友情をわかったような気がしました。

2年生になり、新しく6人グループができて毎時間一緒に過ごしました。探り探りだった私たちが互いの共通点を見つけ、仲が深くなっていきました。時間が経つにつれ、友人同士に共通点ができて、それまでは、いつも話の中心だった自分は疎外感を感じてしまひだまりこむことが多くなりました。私がここで学んだことは人との距離感を把握することです。そして自分がどの立ち位置にいるべきか理解することです。いつも自分が聞き役でもなく、話役でもない気づきました。立ち位置は変化するもので、自分も一緒に変化しなければならぬと深く学びました。

最後の1年間はコロナが流行り、学校に行く期間が約半年も減ってしまいました。受験生だった私は実感が湧かず、漠然としていました。やっとのこと、緊急事態宣言も解除され、受験生らしいことが出来ました。第一志望だった大学に落ちてしまい、今まで感じなかった不安を夜も眠れないくらい感じるようになりました。2回目の受験はたくさんの手を借りて合格できたと思います。親からのプレッシャーや将来への不安に押しつぶされそうになったとき、先生方から声をかけていただいて、気持ちが少し楽になりました。担任の先生を始め、他のことで手一杯だったはずなのに何時間も付き合ってください、改めて頼りになる先生に出会えたと思いました。大人と関わる機会が増え、大学のことだけではなく、人生の先輩としてアドバイスをもらい、将来像を思い描けるようになりました。この受験期間を通して、努力しなければ欲しいものは手に入らないと強く実感しました。

振り返ってみると高校で学んだことは数えきれないほど沢山ありました。当時は何も感じなかったけど、一つ一つの行動や言動には無駄がなく、何かかもが勉強でした。こんな素晴らしい高校生活を送れたのは親の支え、そしてこの奨学金の助けをもらえたからです。本当に心から感謝しています。

### 2. 今後の進路について

高校卒業後はR大学商学部経営学科に通います。経営やマネジメントを学んで起業する際に活用しようと考えています。それ以外にもセミナーに参加し、実践的な販売戦略を学びたいです。大学は高校と違い、待っているだけでは学べないので行動力を活かして将来、役に立つことをしようと考えています。

### 3. 後輩へのメッセージ



私が後輩に伝えたいことはたくさんの人とコミュニケーションをとって、たくさん傷ついて、たくさん学んでほしいです。そして、大人に近づいてほしいです。

どうしていろんな人とコミュニケーションをとってほしいのかというと、将来必要になるからです。困ったときにすぐ助けをもらえるし、いろんな人と関わることで様々な意見を耳にします。それが柔軟な考えを得る方法だと思っています。最近、ロボットが主流になってきているから必要ないと感じる人もいるかもしれませんが、だからこそコミュニケーションをとってほしいのです。人間はクリエイティブな発想ができ、その発想が会社に役立ち、評価されるかもしれません。これらを得る前に、たくさん傷つくと思います。でも自分が成長するためだと思って、その辛い状態を乗り越えてください。私も大人に近づこうと頑張っています。

## Uさん(11期生)

### 1. 高校を卒業して

3年間を振り返りってみればとても濃い時間だなと感じました。

最初はほとんど女しかいない教室でやっていけるのか、いじめに遭わないのか、友達ができるのか、と不安なことばかりでした。ですが、半年もすれば、仲の良い子もでき、10人ぐらいのグループも作ることができました。学校生活も安定し、毎日楽しい生活を送ることができました。

しかし、2年生に上がることが決まった頃に、S高校の移転も決まりました。校舎も先生も変わり、校則や制服も変わりました。そんな中、私はグループの友達と喧嘩をし、グループを出ました。一緒にグループを出てくれる友達がいて、私と一緒に残りの高校生活を過ごしてくれました。そこからとても高校生活が楽しかったです。グループが無くなり、クラスの子ともっと話すことができ、仲良くなれました。席替えてたまたま隣に座っていた子と仲良くなり、クラスとは仲が良いが、クラスの中の最強の4人組になりました。

その4人組では、指導も一緒に受けることにもなりましたが、辛いこともその4人といれば最高の時間に変わるのが分かりました。

最初は早く卒業をしたいと思っていましたが、この4人組のおかげで、卒業することが嫌だと感じる事ができました。長いようで短い3年間はほんとに幸せな時間でした。

### 2. 今後の進路について

今後、私はS短期大へ進学します。私は小さい頃からの夢であった保育士になるために勉強をしたいと思っています。私のやりたい保育を探すため、大学に入り園児たちに教えたいことを学んでいこうと思います。

### 3. 後輩へのメッセージ

将来の夢があり、そのためには大学や短大に行かなければならない夢は、お金が必要になります。実際、私も短大に行くためにお金が必要になりました。その時、助けになったのは定住外国人子ども奨学金です。ただ、お金を貰える訳ではなく、ボランティアをしながら、自分の国を紹介できる素敵な活動しながら貰うことが出来ました。

先生たちはすごく親切で将来のことを気軽に話すことができ、サポートしてくれました。とても自分にとって夢に近づく力になる活動です!

**Tさん (11 期生)****1. 高校を卒業して**

高校に入学して、周りは知らない子ばかりで、話しかける勇気もなかったけれど、共通の趣味を持つ子を見つけ、自分から積極的に話しかけました。4 月に行った合宿オリエンテーションをきっかけにクラスメイト以外の子ども話し、たくさんの友達が出来ました。行事は何もかも初めてのことでだらけでとまどいもありましたが、皆が協力し合い、無事に終わりました。

2 年生になり、先輩と後輩に挟まれ、自分が今どの立場に立ち、どのように振るまえばいいのか悩んだこともありました。それでも、自分からアクションを起こすしかないと思い、行動を起こした結果、たくさんの人と関わることができました。面識のなかった先輩から話しかけられたり、と、行動することの大切さを改めて実感しました。11 月には沖縄に修学旅行へ行きました。戦争の残酷さを目の当たりにし、二度と悲惨な戦争を起こしてはならないと身を持って体験しました。また、沖縄の食文化にも触れ、ずっと驚かされていました。大好きな友達と 3 泊 4 日もずっと一緒にいたことで、今まで見えなかった部分も見え、今まで以上に大切な存在だなと思いました。

新型コロナウイルスの影響で、3 年生になった実感がしなかった 4 月。学校から毎週送られてくる大量の課題と向き合う日々を過ごしていました。友達とも連絡を取らず、家でも、誰とも話さない日があるほど、ずっと一人でした。6 月になり、やっと学校に行くことができ、久しぶりに会った友達に人見知りを発揮してしまうほどでした。高校生活最後の文化祭は、既製品の販売という形をとり、感染対策を十分に取った上での開催になりました。夜遅くまで学校に残り、他愛のない話で盛り上がった日もあれば、もめごとがあった日もありましたが、全部含めていい思い出になりました。体育祭は天気に恵まれず中止になりましたが、いつか笑い話になればいいなと思いました。

高校生活では友達と遠出したり、家に遊びに行ったり、いつもくだらないことで笑っていました。悩みが出来たときに、何も言わず、話を聞いてくれただけでスッキリすることもありました。そんな友達に出会えたことが何よりの宝物です。

**2. 今後の進路について**

看護師になるために、看護専門学校に進学しました。そこでは、知識はもちろん、人との付き合い方などを学んでいきたいと思います。また、地域交流にも積極的に行き、様々な人と触れ合いたいと考えています。生活面に関しては、今まで通り、規則正しい生活を送り、勉学に励む環境を整えていきます。

**3. 後輩へのメッセージ**

私のように初めから将来の夢が決まっている子は、その夢を叶えるために今、足りていないものを補えるように努力が必要だと思います。

また、まだ夢がないという子は、いつか見つかったときに、あの時をもう少し頑張ればと後悔しないように勉強したほうが良いと思います。

将来の夢が決まっている私ですが、進学先をどうするか、ずっと悩んでいました。行きたい学校が見つかったときに、「自分の学力が足りない」とならないために、定期考査はもちろん生活態度に気をつけていました。3 年の夏休みに入り、ようやく行きたい学校が決まり、先生に話すと、「大丈夫だね。」と言われました。今まで勉強を頑張って良かったと思いました。周りに何を言われても、自分を信じ、取り組むしか

ないと私は思います。

一生に一度の高校生活。友達とたくさん話し、たくさん遊び、思い出をつくるといいです。この子とは卒業してからもずっと仲良くできるなと思う友達を見つけることができました。この子とは性格が合わないだろうから話さないという人もいると思います。私もそうでした。けれど私の高校生活を楽しいものにしてくれたのは、性格が真逆の子でした。このように、何があるか分かりません。一度話してみるといいです。笑顔で過ごせたことがなにより一番良かったなと思います。充実した日を過ごすために、自ら行動していきましょう!

奨学金のおかげで、毎日が充実して、楽しい日々を送ることができました。

本当にありがとうございました。